

# 受託開始のご案内

謹啓 時下益々ご隆盛のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始することとなりましたので、ご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

敬白

## 記

《受託開始項目》 [6617] ロイシンリッチα2グリコプロテイン (LRG)

《受託 開始日》 2020年6月22日 (月) 受付分より

## 《検査要項》

検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値*1
6617	ロイシンリッチα2グリコプロテイン (LRG)	血清 0.4	冷蔵	A	276点*2,3 生化 I	4~9	LA法	16.0μg/mL未満 (炎症性腸疾患の活動期の判定補助における参考基準値) ※健常者参考値: 6.48~13.92 μg/mL

\*1: 判定上の留意事項

感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。

\*2: 血清検体として、LRGを潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、3月に1回を限度として算定できます。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載してください。

\*3: 潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として、カルプロテクチン(糞便)または「[D313] 大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

## 【ロイシンリッチα2グリコプロテイン】

ロイシンリッチα2グリコプロテイン（Leucine-rich alpha 2 glycoprotein ; LRG）は炎症性腸疾患（Inflammatory bowel disease ; IBD）の寛解期と活動期を反映することが出来る新しい血清バイオマーカーです。

IBDは原因が明らかにされていない慢性非特異性腸炎の総称で難病指定されており、潰瘍性大腸炎とクローン病に分類され、腹痛、下痢、血便などの症状を再燃と寛解を繰り返しながら慢性的に推移する炎症性疾患です。比較的若年に発症し、日本における患者数は21万人以上と推測されており、増加傾向にあると考えられています。

治療には近年の生物学的製剤の進歩により、炎症抑制に有効なTNF-α阻害剤が開発され、ステロイド剤などと組み合わせることにより炎症の沈静化や再燃予防が可能になりました。しかしそのためには疾患活動性を適切に判断することが必要であり、侵襲性の高い内視鏡検査に頼らない炎症性マーカーの登場が待たれていました。

糞便を材料とするカルプロテクチンはIBDの診断補助（糞便材料のため疾患特異性が高い）に、一方、血清を材料とするLRGはIBDの活動期の判定補助に有用です。潰瘍性大腸炎の活動期の判定には臨床指標（CAI： Clinical Activity Index）、CRPおよびLRGの組み合わせが有用であり、クローン病においては臨床指数（CDAI： Crohn ' s Disease Index）、CRPおよびLRGの組み合わせが、活動期の判定補助に有用です。